

2021年7月15日発行
2021年9月15日更新
2021年10月1日更新

2022年度

経済学部ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

2022 年度 経済学部
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

目 次

演習の履修を希望する皆さんへ … 2

教員によるゼミの紹介 … 3~32

経済学科	頁
犬飼佳吾	3
大石尊之	4
岡本実哲	5
神門善久	6
児玉直美	7
小林正人	8
齋藤隆志	9
齋藤弘樹	10
坂本陽子	11
白井誠人	12
鈴木岳	13
宋立水	14
高松慶裕	15
千葉正憲	16
中野聡子	17
村田玲音	18

経営学科	頁
赤松直樹	19
飯田浩司	20
五十嵐千尋	21
稲山健司	22
大竹光寿	23
尾畑裕	24
北浦貴士	25
斉藤嘉一	26
佐藤成紀	27
西村三保子	28
西山由美	29
濱口幸弘	30
林祥平	31
森田正隆	32

演習の履修を希望する皆さんへ

2021年7月15日

経済学部長 佐々木百合

大学時代のゼミの思い出を教えてください、と言われたら、いろいろなことが頭に浮かびます。初めてのプレゼンテーションを時間かけて準備したこと、他ゼミとのディベートで緊張したこと、ゼミ合宿で遅くまでお酒を飲んだり、遊園地にいったりしたことなど。そして、その体験を一緒にした友達は今でも連絡を取り合っています。それくらい大学時代のゼミ活動というのは印象深いものです。

大学に入ってから「講義」というのは、一人の先生が教えて、それを生徒が聞く、という形式がほとんどだったと思います。「ゼミ」はこれに対して、生徒が主体となって進めていき、先生は横で聞いていて、それにアドバイスしたり、質問を施したりするだけです。ゼミ生ひとりひとりが責任をもって参加して、調べたことを発表したり、グループで議論したり、論文を書いたりします。したがって、勝手に休んだり、遅れて来たりすることはもちろん許されません。それは「講義」に置き換えれば、先生がお休みで休講になったり、先生が授業の途中から教室に来たりするのと同じだからです。よって、ゼミ生ひとりひとりが、責任をもって参加しなければゼミは成り立ちません。そして、それだけに、一緒にゼミをつくりあげた仲間との絆は強くなるのです。

このような「ゼミ」で、いったいどんなことができるのでしょうか。ゼミでは、各先生方が最も得意とする研究分野について学んだり、自分たちで関連したテーマについて研究したりすることができるようになります。例えばテキストの担当箇所をわかりやすくまとめて発表したり、それについてみんなで議論したり、データ分析をしたり、ディベートのために様々な資料を調べたりします。経済学・経営学をただ「学ぶ」、のではなく、様々な問題を経済学・経営学を使って分析・研究するのです。4年生で書く卒業論文は、ただ何かについて調べてまとめる「レポート」ではなく、しっかりとした学問的基礎に基づいて行われた分析を読み込んで、それらを自分の考えに従ってまとめたり、ときには独自のアンケートや独自のデータ分析をそれに加えたりします。

以上のようなゼミ活動をぜひ皆さんに体験していただきたいと思います。まずはこの冊子を読んで、どんなことを学び、研究してみたいかを考えてみてください。みなさんのゼミ活動が、充実したものになることを願っております。

犬飼 佳吾 ゼミナール【実験経済学研究室】

演習のテーマ

行動経済学、実験経済学、ニューロエコノミクス

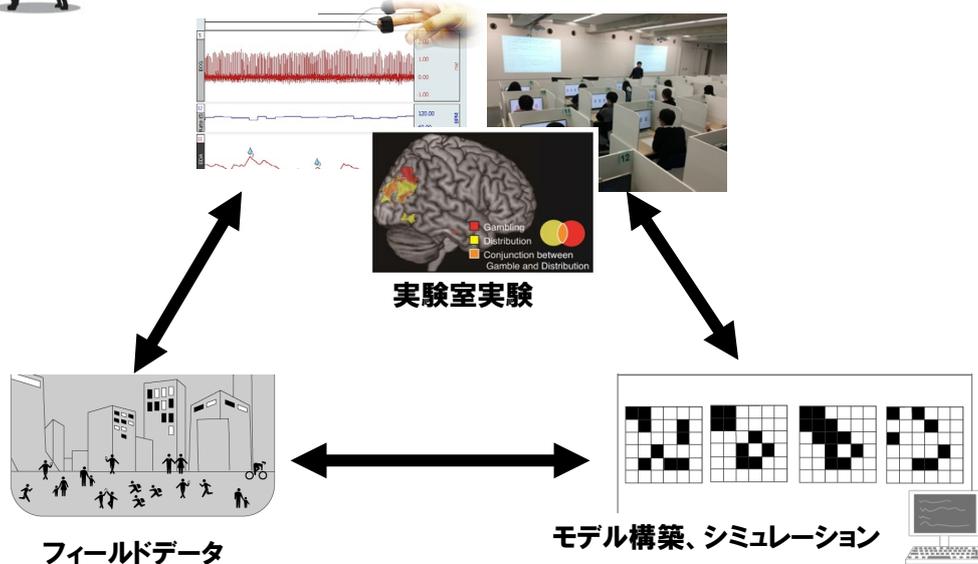
演習の内容

このゼミでは、実験という手法によって、私たちの意思決定や行動原理、経済の仕組みを理解することを目的としています。ゼミの学生は、実験研究に関する背景知識の学習を進めたうえで、教員と相談しながら実験研究のプロジェクトを進めます。研究を進めていくなかで、経済学の考え方や理論を学ぶだけではなく、実際の私たち自身の行動の仕組みについて理解し、より良い意思決定や社会の仕組みを考えていきたいと思えます。

ゼミで扱う研究範囲は多岐にわたります。たとえば、私たちの意思決定のクセや特徴を調べたり（行動経済学）、経済や社会の仕組みを実験によって検討したり（実験経済学）、経済学上の意思決定や判断をしているときに脳や体の中でどんなことが起こっているかを研究（ニューロ・エコノミクス）します。これらの課題について教員やゼミ生と議論しながら、卒業論文にむけて研究を進めていきます。

また、このゼミは従来のゼミの枠組みを超えて、実験経済学研究室という単位のもと、国内外の研究者と連携しながら先端研究を推進しています。

生物として「ヒト」と経済学や社会科学が対象とする「人」との間をつなぐ研究に興味をもち、強い情熱や好奇心のある方を募集します。



大石 尊之 ゼミナール

演習のテーマ

法と経済学（競争法の経済分析）

演習の内容

ゼミでは、「法と経済学」と呼ばれる分野のなかで重要視されてきた、競争法や不法行為法などのテーマを議論します。2022 度のゼミでは、競争法を中心に議論します。競争法の身近な例をあげて説明しましょう。みなさんの多くは音楽を iPhone などのスマホで気軽に楽しんでいるかもしれませんが、スマホでこのような楽しみ方ができるのは、iTunes のようなソフトの開発に代表されるポータブル・オーディオ市場の技術革新があったからですが、このような技術革新は、市場の競争によって促進されたものです。そして、実はこの競争は、競争行為を守るルール（競争法）によって支えられています。例えば、アメリカの反トラスト法や日本の独占禁止法といった競争法では、既存企業が新規企業の市場参入を意図的に阻止することを禁止しています。ポータブル・オーディオ市場の競争が阻害されていれば、技術革新が起きず、ひょっとしたら、今のように音楽を iPhone などのスマホで気軽に楽しむことができなかつたかもしれません。このように、市場は競争法に支えられており、さまざまな市場の分析に長けている経済学においても、法制度との関連は無視することができない、重要なものなのです。ゼミでは、経済学の視点から見た、法制度・法的ルールの興味深くて多様な面を、学生の皆さんと一緒に議論していきたいと思います。

2022 年度は、次のような進め方を予定しています。まず、3 年生の場合は、昨年度に引き続き、「独占禁止法 新版—国際標準の競争法へ」（村上政博著，岩波新書，2017 年）を全員で輪読します。市場のグローバル化を受けて整備され、いままも発展し続けている国際標準の競争法のありようを、ミクロ経済学の観点から分析します。また、私が担当する「法と経済学 1・2」が学部 3 年生以上に開講されますが、この科目はゼミの演習テーマである「法と経済学」の基礎的内容を網羅的に扱いますので、当該科目の履修をゼミ生の必修科目としています。また、法と経済学はミクロ経済学の理論を基礎にしていますので、ゼミで勉強を本格的に始める際には「初級ミクロ経済学 1・2」が履修済みであることが望ましいです。

4 年生の場合は、本人の希望テーマに沿って、卒業論文の指導を行います。論文のテーマの選定（法と経済学に関連したミクロ経済学の諸分野に関係するテーマが望ましい）、文献サーベイ、モデルの作成やモデルのエッセンスを伝える様々な例の作成、論文の書き方（特にイントロダクション）など、卒業論文を執筆する際のステップごとに、可能な限り丁寧に、個別指導します。

岡本 実哲 ゼミナール

演習のテーマ

ミクロ経済学・ゲーム理論の応用—オークション, マッチング, 社会的選択理論

演習の内容

このゼミでは、ミクロ経済学・ゲーム理論の応用として現実のマーケットや社会制度の設計をテーマに学びます。

あなたが何かモノを売りたいとしましょう。そのモノは「誰が一番高く買ってくれる」、また「いくらで買ってくれる」のでしょうか。一人ひとりいくらで買ってくれるか聞いて回るのも大変だし、そもそも聞いたところで正直に回答してくれるかもわかりません。またお店を開こうにもどのくらいの価格を付ければ上手くいくのかわかりません。

オークション（競争入札）は、そのモノに興味がある人に集まって競争してもらう場を設けることにより「一番高く買ってくれる人」と「価格」を見つける手段です。しかし、ひとえにオークションといっても様々なルールがあり、どのように競争してもらうかによって結果が変わってきます。オークション理論では、オークションのデザインによってどのように参加者の行動や結果が変わるのかを分析します。

今日、オークションはいたるところで行われています。美術品などの高価なモノを扱うイベントから、個人でも簡単に参加することができるインターネットオークション、国債や周波数帯利用権といった公共部門によるオークションまで、様々なオークションが開催されています。皆さんが Google で検索するたびに表示される広告もオークションで決まっていますし、メルカリでの販売もある種のオークションとして捉えることができます。ゼミではこういった現実の問題を念頭にオークションのデザインなどを学びます。

ここではオークション理論を例に挙げましたが参加者の興味関心に応じて、マッチングや投票制度の設計、産業組織論、契約理論などの関連分野も扱います。ゼミは、経済学の考え方を養うことも当然ですが、経済学を通して「自分なりの考え方を持つ習慣」や「自分の考え方を他人に伝える力」を養う場にもしたいと考えています。そのためゼミは講義を受けるのではなく、参加者各自が興味を持ったテーマについて発表してもらい、また発表を通して皆さんで議論していく形式で進めます。

神門 善久 ゼミナール

演習のテーマ

経済学の基礎がため

演習の内容

演習の進め方も含めて、学生の発意を求める。自分で問題を発見し、考える習慣をつける。ミクロ経済学、マクロ経済学、時事英語、統計学など、基礎的な訓練を重視する。

児玉 直美 ゼミナール

演習のテーマ

政策評価

演習の内容

情報技術の発展によって、大量のデータ（ビッグデータ）が入手できるようになってきました。「政策評価」は、国や地方自治体の「政策」をデータを使って評価するだけではありません。政策評価の方法を習得すれば、「どんな広告戦略を採用すると売上が上がるのか？」「社員の仕事の効率を上げるためにどんな方法が良いか？」「補助金にはどの程度の効果があったか？」「教育現場で、どの教材が効果があったか？」という問題にも答えることができます。近年、インターネット関連のハイテク企業だけでなく、多くの企業で、ポイントカードデータ、POS、スマホのメッセージやSNSを利用したダイレクト、リアルタイムに行う広告や販促が一般化しています。「政策評価」は、単にビッグデータが使えればできるわけではありません。機械学習などの手法で、巨大なデータを事後的に分析するだけでは、なぜそのようになったかというメカニズムの部分はブラックボックスになってしまいます。理論や先行研究を踏まえた仮説を組み立て、因果関係を明らかにする方法を習得しませんか？

このゼミの目的は、**計量経済学を使って、様々なデータから自分のオリジナルな発見をすること**です。公務員やコンサルを目指す人だけでなく、民間企業でマーケティングや新企画を立ち上げる時に、政策評価の知識とスキルは役に立ちます。データを駆使して自分で考える能力を養ってみませんか？この能力を活かし、各自、興味のある社会のメカニズムについて研究を行います。経済学の考え方を基本としますが、法律、経営、マーケティング、福祉、環境、スポーツ、趣味など、様々な視点を絡めて柔軟に考え、議論してください。

最初は座学での学習と実際のデータ分析を繰り返して分析感覚を養います。本格的な研究はグループワークで行い、統計分析ソフトの習得も含めて、約半年じっくり行います。研究成果はプレゼンテーション訓練を徹底的に行った上で、学内（ゼミ内、他ゼミ）、学外（他大学との合同ゼミ）で発表します。発表前には、グループで、ゼミ以外の時間に集まって準備することもあります。4年生では、これらの経験を活かして、自分の好きなテーマで、卒業研究を行います。その他、ゼミ生の希望に応じて、ゼミ合宿、他大学との発表会や合宿、懇親会、スポーツ大会なども行う予定です。ゼミ運営は「一人一役」で業務を分担します。ゼミの時間以外での活動も多いので、卒業後も付き合い合えるような仲間に出会えることは間違いありません。ゼミ活動、課外活動に積極的に関わる学生の参加を期待しています。

小林 正人 ゼミナール

演習のテーマ

プログラミング、データ分析、機械学習

演習の内容

ゼミではデータ分析のスキルの習得を目標に、

- (1) データのありか、見つけ方、入手の仕方
- (2) データの加工方法、統計分析
- (3) 機械学習の入門

の学習をおこないます。

言語は R をまずマスターし、プログラミングの基本があるていどわかったところで、Python を学びます。

私は統計学の教師なので、統計学済みのかたの応募を歓迎しますが、データ分析には統計学以外のスキルのウェイトのほうが大きく、統計学未履修でもハンディキャップは全くありません。。機械学習もデータ分析もその理論をきわめるには数学を必要とするのですが、このゼミでは理論に立ちいることなく、生のデータとの格闘をとおして現実にたいする洞察力を高めることをめざします。いまは、『社会科学のためのデータ分析入門』(今井耕介著、岩波書店)の巻末問題を相談しながら解いていますので、本屋で立ち読みをして、データ分析でこんなことやるのかと興味をもっていたら、ぜひ応募してください。

齋藤 隆志 ゼミナール

演習のテーマ

労働経済学

演習の内容

このゼミの一番大きなイベントは、3年生の秋学期に実施する他大学との合同ゼミです。4~5人のグループを作り、労働経済学のテーマに興味のあるものを自分たちで選択し、計量経済学を用いた分析を中心とする研究報告をしてもらいます。では、労働経済学に関するテーマとはどんなものがあるのでしょうか。

皆さんにとって身近な労働というと、まずはアルバイトでしょう。しかし、アルバイト一つをとっても、同じ仕事なのに時間や場所によって時給が違います。正社員とアルバイトが同じ仕事をしているのに、時給が全然違うということもあります。また、パートに代表される「非正社員」の割合が高くなり、多くは女性ですが、何故でしょうか。

さらに最近人手不足を背景に、外国人労働者が増加し、AIやロボットに代表されるように人の代わりに働いてくれるような技術も進展しています。コンビニ等でも外国人の店員さんをよく見かけますし、無人レジも増えています。これらが、日本の労働者にどのような影響を与えるのか。失業者を増やしたり賃金を低下させたりするのか、あるいはその逆なのか。もしくは良い影響を受ける人と悪い影響を受ける人が同時にいて、それらの間には何か違いがあるのでしょうか。

また、コロナ禍においてテレワークが一気に広がりました。通勤時間が節約でき、良好なワークライフバランスを実現できそうですし、企業も賃料の高いオフィスを縮小できそうです。労働者も企業もWin-Winになると思われましたが、意外と広まっておらず、元に戻す企業が多数派です。なぜでしょうか。経営学に近いテーマと思われるかもしれませんが、人事経済学という関連分野でこうした研究が行われているのです。

皆さんには、3年生の5月末ぐらいまでにグループの研究テーマを決めてもらい、その後関連文献(研究書、論文)を集めて読み、それを手本として自分たちでデータを収集し、夏休みから秋学期にかけて計量分析を行い、結果を解釈し、合同ゼミ用の報告資料を作ってもらいます。毎回のゼミでは、各グループでゼミ以外の時間に集まって作業した成果を発表してもらいます。

勉強以外にも、ゼミ生は毎月イベントを企画します。野球観戦、博物館等の見学、そして中でも夏合宿は大いに盛り上がります。コロナ禍でもなんとか工夫して、イベントを実施しました。このようにゼミとしての活動が非常に多いので、一人一つ係を担当して運営をスムーズに進めてもらうこととなります。サークル・部活・アルバイトとの両立は非常に大変ではありますが、学生生活が充実することは間違いありません。

齋藤 弘樹 ゼミナール

演習のテーマ

ゲーム理論とその応用

演習の内容

ゲーム理論とその関連分野を中心に学びます。3年次では、グループワークが中心となります。グループごとにトピックを選択し、自由な形式で報告・討論をします。過去のゼミでは、ゲーム理論の基礎、行動経済学、マッチング理論、オークションなどをテーマとして扱ってきました。4年次では、個別のテーマに基づいて研究報告を行い、ゼミ生・教員との議論を通じて卒業論文の完成を目指します。ゼミ生は、一人一人が何らかの役割を持ち、能動的に参加することが求められます。

坂本 陽子 ゼミナール

演習のテーマ

国際経済学、空間経済学

演習の内容

予備ゼミ

論文の書き方に関する教科書を配布し、ゼミ開始までに各自読んでおいてもらう予定です。定期的な予備ゼミの開催は行いません。

3年生

3年生は、まずは Stata というソフトウェアを使ってデータ分析の方法を勉強します。Stata の使い方について一通り学んだ後は、班に分かれてグループワークをしてもらいます。グループワークでは教員の指導の下、データ集め、分析、論文執筆までの一連の流れを経験してもらいます。その成果は8月に行う夏合宿や11月のインゼミで発表してもらうほか、12月にグループ論文として提出してもらう予定です。

4年生

4年生は卒業論文を執筆します。卒論では、原則として3年次で学んだ Stata を用いたデータ分析を行ってもらいます。卒論のテーマは、空間経済学に関連しているもの（例えば、「国際貿易」「地域経済」「産業立地」「都市形成」や「不動産」「交通」「観光」など）を想定していますが、担当教員が指導可能なものであれば個々の学生の興味に従って自由に設定することができます。

その他

データ分析の演習は、各自が自由に使えるノートパソコンを持っていることを前提として行います。また、4年次の卒論執筆は必須条件です。

ゼミは学生が主体となって運営していくものですので、どのようなゼミになるかはゼミ生一人一人の姿勢にかかっています。ゼミ活動はある程度の時間的拘束を伴うということを理解した上で、それを厭わず積極的にゼミ運営に参加する意志のある学生を4期生として募集します。

白井 誠人 ゼミナール

演習のテーマ

日本経済論(特に就職先企業の経済分析)

演習の内容

ゼミ生の就職活動や卒業後のビジネス能力を考慮し、以下の内容を予定しています。

3年生： 近年の産業・企業研究の成果を踏まえ、論理思考力やコミュニケーション力等のビジネス基礎力を学修しながら、実際の企業経営者が求める人材と能力について考察します。就職面接時に「大学時代に何を学んだのか」「将来への自己投資として何をしたのか」を明確に説明できるように鍛錬します。応用課題として、大学生活や就職、問題解決等についてのディスカッションテーマを少人数チームで議論し、各チームの結論を個別に発表した後、全員で検討するグループディスカッションを行います。

同時に春学期と夏休みのサブゼミで就職希望業種・企業の歴史、現状や展望、課題等の情報収集および分析作業を進めてもらい、秋学期に経済指標や各種資料を用いた業界分析の発表、相互の志望業界の情報交換および議論を予定しています。

4年生： Bゼミでの募集のため、講義は3年生のみの予定です。

鈴木 岳 ゼミナール

演習のテーマ

政治哲学・公共哲学

演習の内容

現代の民主的な社会の市民にとって、どのような政策・制度が正当であり、市民はいかなる自由と権利を持ち、いかに行動するべきであるかといった事柄に対して判断を下すことは、各人に課せられた責任である。責任ある判断とは、もちろん単なる伝聞や「世間の常識」ではなく、自身による理性的根拠を伴う判断を意味する。残念ながら、経済学の知識だけではこうした事柄を判断するために十分な理性的根拠を得ることはできない。またそもそも、こうした事柄の全てを教えてくれる一つの学問などは存在しない。これらは政治哲学に属する問題であるが、「哲学」とは出来上がった学説・理論を教示する学問ではなく、ただ同じ哲学的関心を持つ仲間との議論を通じて少しでも理解を深めていこうとする一種の実践である。

そこでこのゼミでは、M. サンデル著『これからの正義の話をしよう』の輪読を通じて政治・公共哲学の諸問題を議論する。ゼミ生は担当として割り当てられた箇所を数ページのレジュメにまとめてゼミの初めに発表し、その後で各人は質問や意見を述べて、議論を行う。こうして始まった議論が首尾一貫したものとなるか、何らかのまとまった結論を得るにいたるかどうかは、全く分からない（大抵はそうはならない）。つまり哲学においては、何らかの「成果」と呼ばれ得る結論を生み出すことは一般には極めて難しいのである。ただ自分とは異なる意見を聞き、考えを述べ合い、説得に努め、相手の考えを納得した場合にはそれを受け入れる、といった過程（それが議論である）を通じて自分自身の意見・考えを深めることができたならば大成功と言うべきなのである（実はこれすらもまた大変に難しいのであるが）。

従って、こうした議論に加わらずにただ他のゼミ生のやり取りを聞いているだけでは、収穫は少ないだろう。教科書について自分の担当箇所でないところも予め読んでおき、積極的に議論に参加することが望ましい。またこのゼミの目的はあくまで上に述べた諸問題についての各人の考えを深めることであって、サンデル教授の著書に対する理解度を試すことではない（もちろんゼミは教科書に対する十分な理解を前提として進めるが）から、教科書のみならず、日ごろからニュースや各種報道に注意を払い、現代社会（かならずしも日本に限らない）で生じている諸問題に関心を持つこともまた大切である。

宋 立水 ゼミナール

演習のテーマ

開発経済学と東アジア地域経済に関する研究

演習の内容

経済発展は、世界各国の共通の課題である。本ゼミでは、東アジア地域の経済発展問題を取り上げ、経済・技術的、歴史・文化的、社会・制度的状況について、開発経済学のアプローチでの研究検証を行う。

三年次では、主に開発経済学の理論・実証方法を学習する。四年次では、皆さんが学習した理論・実証方法を応用し、自由に設定した研究を行い、卒業論文を作成する。

ゼミの学習方式は、学生諸君を主体とする個人予習—2～3人グループ学習—グループによる発表—全体討論という形式を採用する。

東アジア地域のような発展途上国の経済発展諸問題を考察するとき、経済学の諸理論（仮説）の習得は当然だが、基本的な分析方法論としての統計学など基本知識の学習を薦める。

ゼミの学習効果を高めるために、読書をすること、思考（仮説を立てる）をすること、議論をすることを全員に要求するが、意欲のある学生を大歓迎する。

なお、三年次のゼミ合宿の代わりに、教員が担当するフィールドスタディ C（中国社会経済現地考察）の実習科目の履修を薦めます。

高松 慶裕 ゼミナール

演習のテーマ

財政学，公共部門の経済学

演習の内容

財政学は、狭義には政府が資金をどのように調達し、どのように支出するか、を研究する学問で、広義には政府（公共部門）の経済活動を対象にした経済学です。主たる研究対象は、租税（所得税、消費税、法人税など）、公債（財政赤字の持続可能性や公債の負担、財政再建など）、社会保障（年金、医療・介護保険、生活保護など）、地方財政・政府間財政などですが、他にも予算制度や財政政策などカバーする領域は多岐にわたります。ゼミのテーマは、広く公共部門の経済学の中から学生主体で決めてもらいます。

ゼミの進め方は以下のとおりです。

3年生：最初に財政学の教科書を輪読し、財政学の基礎理論や考え方、制度について学び、何が問題かを考察します。その後（同時並行で）、4名前後のグループ毎にテーマを設定してもらい、共同研究を行います。その成果は論文にまとめ、11～12月頃の他大学との合同ゼミで発表します。加えて、各自テーマを設定し、年度末までに卒業論文に向けた中間論文（1万字以上）を提出してもらいます。

4年生：各自のテーマに基づき、卒業論文（2万字以上）を作成します。春学期は3年時に提出してもらった中間論文の添削指導から始めます。その後は、ゼミで各自の進捗報告を行います。11月頃には卒論の中間報告、卒業論文提出後の1月には卒業論文発表会を3年生ゼミとの合同ゼミで行う予定です。

このように、高松ゼミの基本方針は「論文を書くこと」にあります。グループの共同論文、中間論文、卒業論文と最低3回は書く機会があり大変かもしれませんが、勉強になるはずで、財政学（または経済学）の領域から自分（達）自身で問題を設定し、それを経済学的に分析し、結果を論理的に表現できるようになることを目指します。

このゼミは2020年度開設の比較的新しいゼミです。2021年度の3年生は3期生になります。恒例行事として、歓迎会や夏合宿なども行う予定です。特に共同研究を学外で発表する（他大学との合同ゼミを行う）ためには、ゼミ生一人一人がゼミ運営に積極的になり、主体的に関与する必要があります。このゼミを3期生として教員とともに作り上げてくれる熱意のある学生を求めます。

千葉 正憲 ゼミナール

演習のテーマ

ヨーロッパの歴史・文化・経済

演習の内容

このゼミでは、ヨーロッパの歴史・文化・経済を学ぶ。

ヨーロッパは、中世中頃までは世界の片田舎にすぎなかったが、近代に入ると、急速に力をつけ、遂に世界を制覇するに至った。しかし、第一次世界大戦を境に、「西洋の没落」が顕在化し、第二次大戦はこの傾向に拍車をかけた。幸いにも、第二次大戦後、ヨーロッパは蘇り、現在では欧州連合（EU）を形成して、米国や中国、ロシアに対峙している。このような長い歴史をもつヨーロッパについて理解を深めることが本演習のねらいである。あるドイツの政治家は「過去に目をつぶる者は、現在に対して盲目になる」と述べたが、本ゼミでは、この言葉を噛み締めながら、学習を進める。

3年次の演習では、(1) 樺山紘一『ルネサンスと地中海』（中央公論新社）、(2) 水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社）、(3) 草光敏雄他『ヨーロッパの歴史Ⅰ』（放送大学教育振興会）、(4) 岩田健治他『現代ヨーロッパ経済 第5版』（有斐閣）などの文献を全員で読む。これらの文献の講読を通じて、基礎知識を習得するとともに、文献や資料の読み方、資料の収集方法、発表の仕方、討論への参加の仕方、文章の書き方などを学ぶ。

4年次には、各自テーマを設定して卒業論文を作成する。演習参加者は、卒論作成に必要な資料の収集を進め、卒論のテーマに関する研究を深める。授業では、輪番で、卒論に関する研究発表（中間発表）をおこなう。中間発表をめぐるゼミ生全員によるディスカッションを通じて、論点を絞り込み、卒論の内容を深めていく。

演習での勉学で十分な成果を挙げるためには、(1) 読書好きであること、(2) 知的好奇心と問題意識を持っていること、(3) 調査・研究を厭わないこと、が肝要である。意欲のある学生の参加を歓迎する。

中野 聡子 ゼミナール

演習のテーマ

経済学史、経済思想史、現代経済学 of 思想背景

演習の内容

この演習は、経済学史・経済思想史をベースにしながら、現代に到るまでの経済学の基本的な考え方を習得することをねらいとしています。つまり、経済理論や思想が、どのような時代や場所で、どのような文脈で出てきたかを参照しながら、現代の経済学の理解を深めようとしています。さらに、現代の経済学の問題点や可能性を探るために、様々な学説の限界と意義を検討します。したがって、経済学に今ひとつ理解できない部分がある、あるいは、もう少しその意味を深く考えたいというような問題意識のある学生の参加を想定している。

例えば、A.スミスは、経済自由主義をどのような思想で捉えていたか？経済学という学問はどのような経緯で誕生したのか？J.M.ケインズの経済政策は、どのような思想に裏付けられて登場したのか？F.ナイトは、不確実性をどのように捉えたか？企業の役割や機能を、経済学ではどのように捉えてきたか？経済学の実証的な方法は、どのようにして現れてきたか？など、ミクロ経済学やマクロ経済学の背景にある経済学の考え方を総合的に見ていきます。

2022年度は、春学期中に経済学の歴史を概観し、夏休みから秋学期にかけて、特定のテーマを研究します。特に、20世紀初頭の現代経済学の形成を、J.M.ケインズ、F.Y.エッジワース、A.マーシャルなどを中心に、経済思想、経済理論史を検討します。

村田 玲音 ゼミナール

演習のテーマ

身の回りの社会活動や経済活動の中で活かされている《暗号技術》を理解する

演習の内容

暗号とは、《大切な情報を、敵には分からず、味方にだけ分かるように伝える技術》のことです。主に戦争などの場面で使われ、非常に長い歴史を持っています。意図的に暗号が使われた例は、紀元前に書かれた歴史書にも記述があります。

暗号は情報を伝える手段の一つなのですが、「情報の受取人を限定できる」(特定の人にだけ情報を伝え、それ以外の人には伝わらないようにする)という特長をもっています。現代社会ではこの特性が非常に重要になり、暗号は現代の経済活動の中で必須の技術として広く使われています。ただ、暗号という名前も示す通り、暗号は常に縁の下の力持ちであって、どんな使われ方をしているのか一般にはあまり知られていません。

このゼミでは、そうした暗号について次のような方法で理解を深めていきます。

第一段階(3年次を全部使う): 暗号の仕組みを知る

暗号の種類を知り、その典型的なものについて仕組みや使用例を知る。

現代暗号には大きく分けて二種類の暗号があります——秘密鍵暗号と公開鍵暗号。公開鍵暗号は新しい暗号方式ですが、現代の通信技術には必須の暗号です。この二種類にはそれぞれ長所と短所があります。この辺りまで勉強すると、現代社会での暗号の使われ方についてかなり理解することができます。

第二段階(4年次の前半): いくつかの事例に即して暗号の使われ方を調べる

『電子投票』『電子カルテ』などは、暗号理論を実際の社会に応用しようとして開発された技術です。こうしたものについて調べてみると、暗号という数学的な技術を人間生活に応用しようとする、どんな難しさが出てくるのか、その複雑さが理解できます。

第三段階(4年次の後半): 身近なものの中から暗号が使われている例を自分で見つけ、それについて詳しく調べ、その結果を卒論にまとめる。

第一段階は私の講義やプリントを中心に授業を行い、第二段階以降はテーマごとに適当な資料を使い、ゼミ生の発表を中心に進めていきます。

赤松 直樹 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティング、消費者行動

演習の内容

このゼミナールでは、「消費者の視点に立ちマーケティングについて分析すること」を基本的なスタンスとしています。ここでの分析方法は特に制約を設けていません。研究論文や学術書の読み込みはベースとして必須ですが、例えば、仮説構築や仮説検証のために利用するデータの種類の問いません（定量データ、定性データなど）。

基本的には、グループワークが中心です。最初は、既存データや共通の課題に関して各グループで研究を進めてもらいますが、後半段階からは、研究テーマや課題設定、データ収集・分析など一から研究をはじめて、その成果を報告してもらいます。これには、ある程度の時間と議論を要するため、ゼミナールの時間外でもグループワーク等を自主的に行うことが求められます。また、他大学のマーケティングゼミとの勉強・研究会、討論会などにも参加する予定です。

ゼミナールを通じて勉強・研究に打ち込むことで、物事の考え方・議論の仕方などを深めていきたい、長期にわたって付き合っていける友達を作りたい等、大学生活をより一層充実させたいと考えている学生をお待ちしています。

飯田 浩司 ゼミナール

演習のテーマ

コンテンツビジネスと法

演習の内容

このゼミでは、いわゆる「コンテンツビジネス」に関して、ビジネス面と法律面での問題点を検討します。一口にコンテンツビジネスと言っても、出版産業、音楽産業、映画産業、アニメ産業、ゲーム産業、演劇産業、放送業、インターネット産業、コンピュータソフト産業など多岐にわたっていますが、このゼミではこれらのコンテンツビジネスの中から、ゼミ生の興味に応じて対象を選び、取り上げたいと思います。

ビジネス面に関しては、それぞれの産業が抱える今日的課題や将来像の考察が中心となり、また、法律面に関しては、著作権法の考察が中心になるかと思いますが、その他のもコンテンツビジネスに関する法(例として、特許法、契約法、独占禁止法等)についても取り上げることができればと考えています。

3年次春学期は、コンテンツビジネスを理解する上で不可欠な著作権に関する知識を習得します。秋学期は、コンテンツビジネスの各業界の概要や直面する問題等について、グループまたは個人で予習の上、発表してもらうことを考えています。4年次は各自テーマを設定して卒業論文を作成します。コンテンツビジネスを対象とするゼミなので、コンテンツビジネスの現場で働く人の話を聞いたりするなどの機会を設けたり、さらにコロナウイルスの感染状況が収まれば、実際のコンテンツビジネスの現場(レコーディングスタジオ、テレビ局、新聞社等)を見学したできればと考えています。また、ゼミ合宿や懇親行事も実施する予定です。

五十嵐 千尋 ゼミナール

演習のテーマ

日本経営史、産業史

演習の内容

このゼミでは、日本経営史上における様々な企業のケーススタディを学んでいきます。そのなかで、企業の成長に関する基礎的な知識や、論理的な思考を習得することを目指します。そして自らの学びや思考をまとめて文章化し、他者と共有することが出来る能力を身につけること、自ら情報を集めて思考し、議論することを目的としています。

3年次の演習 A1 では、テキストをもとにいくつかの日本企業のケーススタディを学びながら、文章でレジюмеを作成し、報告、ディスカッションをします。我々は常日頃、メールなどで文章を作成していますが、学術的な文章はなかなかすぐには書けるようになりません。インプットとアウトプットに慣れていきます。また様々なジャンルの企業の歴史に触れながら、自分は何に関心があるのか、視野を広げていきます。3年次の・A2 では自らテーマを設定し、ゼミ論文を執筆します。論文執筆のための記述資料やデータの探し方も習得します。

4年次の演習 A3・A4 では、各自が興味を持ったテーマを定め、3年次の経験を生かして自ら課題を設定、実証を行い、卒業論文を執筆します。

コロナ禍の現在、今後どうなるかは分かりませんが、可能であれば企業博物館や工場の見学、国会図書館への訪問といった課外活動を考えています。参加は任意です。ゼミ生から訪問先に希望があればそれに沿う形で行えればと思います。

稲山 健司 ゼミナール

演習のテーマ

経営戦略論・経営組織論

演習の内容

このゼミナールでは、企業における多様な現象（戦略策定・実行、イノベーション、新製品開発、企業革新など）を理解するためのスキルを修得することを目指します。そのために、以下を学習の柱とします。

- 経営戦略論、経営組織論などに関する文献を読む。このことを通じて、経営現象を理解するための基礎的なコンセプトとフレームワークを獲得することを目指します。
- 事例研究を行う。事例研究では、経営現象を経営戦略論・経営組織論の視点から分析することを目指します。

大竹 光寿 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティング、消費者行動、消費文化、ブランド

演習の内容

本ゼミナールの狙いは、ユニークな研究を行うことを通じて、学問を深めるだけでなく、社会に何らかの貢献をし、得たものを卒業後の活動に繋げることにあります。

取り上げる題材は、企業経営として「マーケティング」、経営環境として「消費者行動」や「消費文化」、そしてそれら2つを結びつける「ブランド」です。文化という視点からマーケティングと消費との関係を検討し、大企業のみならず、スタートアップ企業にも着目して、ブランド・マネジメントについて理解を深めていきます。

ゼミナールでは、個人研究とグループ研究を並行して行います。個人研究については、卒業論文として、自分にとって切実な問いを設定し、自分なりの答えを出す作業を行います。そのために、関連するテーマの研究論文や学術書、研究方法に関する文献を読みその内容をゼミ生らと共有・議論したり、フォールド調査に出かけたりします。また、研究成果をゼミで随時発表して、ゼミ OBOG を含む実務家からもフィードバックをもらい、研究を深めます。グループ研究に関しては、関心が近いゼミ生とチームを組んで、現場でブランディングに携わる方々と接しながら、社会に対して何らかの貢献ができるようなプロジェクトを企画・実行してもらいます（下記参照）。

こうした個人研究とグループ研究を通じて、実務の現場との接点を学生なりに見つけて、学問と実践を行います。合宿や大学外での活動などについて学生の意見を取り入れながら、良き学びと出会いの場となるよう、ゼミナールを作り上げていきます。課外活動や OBOG 会の運営などにも積極的に携わる学生の参加を期待しています。

※グループ研究のテーマ（一例）：各チーム（3名ほど）で秀逸なブランドを探して、ブランドブック（創業者、社長、職人、マーケター、取引先、顧客、ジャーナリストなど、そのブランドに関わる方々を実際に取材し、写真や文章などでブランドの本質をまとめた本）を作成する。そして、取材内容や共同プロジェクトの結果を社会に発信する。つまり、単に取材するだけでなく、自らコンテンツのマーケティングも行うことになる。取材を通じて実務家から学んでいるのでそれが活かせる。実務家や学者の本もそれに合わせて読み込む。協力先企業へのアポ取り、本社での企画提案のプレゼンも含めて学生主体で行う。学生の取り組み自体がメディアから取材を受け、取り上げられることもある。

・主な企業とブランド：アサヒ（玄米ブラン、カルピス）、クックパッド、SALASUSU、資生堂、D&DEPARTMENT、富士フイルム（写ルンです）、堀口切子、ミリメーター、森ビル

尾畑 裕 ゼミナール

演習のテーマ

原価計算、管理会計

演習の内容

本ゼミは、今回はじめてゼミ生を募集します。ですので、みなさんが1期生であり、先輩はいません。ぜひ主体的にこのゼミの形をつくりあげていってください。

本ゼミでは、原価計算と管理会計をテーマとします。原価計算は、計算構造の把握が重要ですが、管理会計は意思決定の原理を理解するのみならず、組織内のひとの行動やその相互作用に注目することも重要です。みなさんは、原価計算と聞いてどういうイメージを持ちますか。資格試験や検定試験の試験科目を連想されるかもしれません。常に電卓をたたいているイメージがあるかもしれません。しかし、実務で行われている原価計算は、実に多様で、創意工夫が要求されます。決まったパターンを適用するだけでは終わりません。しかも原価計算システムは、まだまだ新しい発展のある領域です。近年では工場の設備の稼働をセンサーで把握し、1品1品の実績作業時間を把握してそれを蓄積してIoTデータをコストマネジメントに役立てる試みもなされています。このゼミでは、実務における多様な原価計算システムに対応できるように、3年次の春学期は尾畑が作成した原価計算システム構築用のライブラリも活用してもらいながら Python で計算ロジックを組み立てて、さまざまなタイプの原価計算システムをためしてみる実験を行いたいと思います。みなさんの想像力を駆使して、いろいろと新しい原価計算システムを試してほしいと思います。

Python は入門時のハードルが低い言語です。初歩から丁寧に指導しますのでプログラミングははじめてというひとでも大丈夫です。Python をひとたび身に着ければ、スクレイピングへの活用や、機械学習への応用も視野にはいる強力なツールとなります。3年次の秋学期からは、身に着けた Python のスキルを応用して、経営組織のなかでおこる現象をシミュレーションで再現する実験を行っていきたいと思います。参考にするプログラムはこちらで用意します。管理会計の問題をエージェント・ベース・モデルのシミュレーション使って解明していく研究は、まだまだ新しい研究分野ですが、非常におもしろい領域です。みなさんにもシミュレーションで組織現象や管理会計問題を分析する楽しみを味わっていただきたいと思います。

4年次には、卒業論文に向けて個別テーマでの報告をしていただきます。3年次でせつかく Python を習得するので、Python を活かした研究テーマを推奨します。それにより非常にオリジナリティのある管理会計研究に取り組むことができると思います。

できれば他大学のゼミとのインターゼミも企画したいと考えております。

北浦 貴士 ゼミナール

演習のテーマ

日本企業の経営分析

演習の内容

このゼミでは、歴史的な視点をはじめとする様々な観点から、日本企業の経営を検討しています。ゼミ生同士が仲良くなり、居心地が良い雰囲気を作ることを最も重視しています。演習 A1・A2 では、教員が指定した日本企業の経営を事例にして、企業分析の方法を学びます。A3・A4 では、ゼミ生が設定したテーマに基づいて、卒業論文を執筆します。

2022 年度の演習 A1・A2 では、オリエンタルランド（東京ディズニーリゾート）の経営分析を行います。分析にあたっては、ビジネスをパーク・アトラクション・フード・グッズ・キャストの 5 つのチームに分類し、ゼミ生各自が 1 つのチームに所属します。各チームは 2 名によって構成されます。また、新型コロナウイルスが企業経営に与えた影響を分析します。

演習 A1・A2 のコアとなる活動は、バックグラウンドストーリーの分析と体験学習です。各人が 1 つのアトラクションを担当し、その背後に隠されているバックグラウンドストーリーを分析することによって、世界観やそれを通じた企業の経営理念を明らかにします。公開ゼミで、現 3 年生が模擬発表を行いますので、関心のある方は是非ご参加ください。

体験学習は、1 泊 2 日の日程でパーク及びホテルで実施されます。2 年間を通じて、2 つのパークとパークに隣接する 2 つの主要ホテルを訪れます。バックグラウンドストーリーを理解した上で体験するパークは、今までとは一味も二味も違うものになると思います。体験学習では、各チームに対して担当するテーマに関連するミッションが課されます。チームのメンバーと一緒に協力して、ミッションに挑戦してみてください。2 回の体験学習は、きっと大学生活における素晴らしい思い出となるでしょう。

その他にも、アンケート調査・インタビュー調査・新聞記事を用いた分析・有価証券報告書を用いた財務分析などを時間が許す限り順番に行なっていきます。最初に各分析手法について簡単に勉強した上で、実際に分析を行います。

このゼミでは、基幹科目で勉強する経営学に関する基礎的な理論をベースにして、実際の企業活動について、ゼミのメンバーと協力して考察を加えます。そのため、このゼミは、(1) 理論よりも実際の現場に関心のある方、(2) 経営学・マーケティング・会計学という 3 分野を満遍なく勉強したい方、(3) チームのメンバーと協力して勉強したい方に向いているゼミです。

齊藤 嘉一 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティングと消費者行動

演習の内容

なぜたくさんの方が繰り返し東京ディズニーランドを訪れるのだろうか？しかも、おそろいのコーデで！なぜ“インスタグラマー”の持ち物が流行るのだろうか？このゼミは、私たちの身近に起こっているマーケティング現象に「なぜ？」という問いを投げかけ、その問いに対して、消費者行動の立場から、ユニークあると同時に説得力のある答えを見つけることをねらいとしています。

マーケティング現象を説明するためには、文献からマーケティングや消費者行動の理論を学ぶことも求められますが、それだけでは十分ではありません。ゼミでは、身近にあるマーケティング現象に興味を持ち、マーケティング現象を理論に基づいて説明しようと試みることで、そして、理論に基づいて現象を説明しようという試みの中で生まれてきた仮説を、データを収集・分析することによって検証することを目指します。

理論を学ぶこと、データ収集と分析のスキルを身に付けることも大切ですが、現象を自分なりに説明しよう、自らが導き出した仮説を検証しようとする姿勢が何より大切だと考えます。主体性を持った学生諸君の応募を待っています。

佐藤 成紀 ゼミナール

演習のテーマ：

企業の会計システム

演習の内容：

企業の経営にとって会計システムは、その財政状態や経営成績に関する情報を提供するという、重要な役割を担っています。

ゼミナールでは、こうした会計システムに関する研究を、ゼミ生一人ひとりが主体的に進めることとなります。テーマは会計に関連があれば自由に選択できます。将来就職を希望している業界の企業についての収益性や安全性の分析、会計制度や会計ルールの仕組みや問題点を考察するのもよいでしょう。あるいは、経営やマーケティングと会計の関わりを調べてみることも、有意義な研究です。

実際、各自のテーマを、すぐに見つけることは、なかなか難しいものです。そのような場合、基本の確認から始めると、自分の問題意識を発見できることが多いものです。そうした観点から3年次春学期は、英文教材を用いて会計の基本を学ぶことから始めます。いま、世界の決算書のグローバル・スタンダードとなっているのは、国際財務報告基準などに基づく英文決算書です。会計情報を英語でも理解できる人材がますます求められている、現代のビジネス環境への適応能力を身につけていきます。

こうしたウォーミングアップに続いて、三年次春学期の後半からは、ゼミ生各自のテーマ探しが始まります。毎週、順番に、関心のあるテーマについてのプレゼンテーションをしていきます。ゼミでの個人報告とディスカッションを通じて、自分のテーマを模索して行くわけですが、そのプロセスがとても大切です。参加者全員から色々な意見が出されて、それを参考にしながら、自分のテーマへのアプローチを進めます。四年次では、卒論の完成を目指した個人報告を、さらに積み上げていきます。最初に選んだテーマから、次第に別のテーマに関心が移っていくことも多いのですが、それは、テーマを真剣に探している証拠でもあり、まったく自然なことです。誰もが、迷いながら目標を探すものです。

ゼミでは、「学び」の楽しさを実感してもらえたらと思っています。自分で考え、自分の意見を持つことはとても大切です。ゼミでの報告について出された質問をしっかりと把握し、それに対して的確なリアクションができるように、コミュニケーション能力を高めていきましょう。みなさんが主役となるゼミナール体験を是非、楽しんでもらえたらと思っています。

西村 三保子 ゼミナール

演習のテーマ

管理会計、企業分析

演習の内容

企業会計は、企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。経営管理のために主に企業内部のステークホルダーを情報利用者とする管理会計と、利害調整のために主に企業外部のステークホルダーを情報利用者とする財務会計に大別されます。

管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計や企業分析の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力しましょう。

2022年度の西村ゼミはBゼミなので、3年次一年間のゼミ活動になります。3年次春学期には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回レジュメを作成し報告します。秋学期には、12月のインゼミ（他大学との合同報告会）での報告に向け、グループに分かれて調査・研究を進めます。

また、9月に2泊3日の夏合宿を予定しています。

ゼミ活動を通じて、皆さんが学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができる大切な仲間と出会えるよう願っています。ゼミがそのような素晴らしい場となりますように…。

西山 由美 ゼミナール

演習のテーマ

「税のエキスパートをめざす」

演習の内容

ビジネスに深くかかわる税(所得税・法人税・消費税・事業承継にかかる相続税)の仕組みを理解したうえで、ビジネス戦略を練ったり、問題点に対する解決策を考えたりします。税理士、国税専門官にとどまらず、民間企業の税セクションでも活躍できる「税のエキスパート」をめざしてください。

【ゼミの進め方】

春休み中に予備ゼミを実施し、図書館スタッフによるサポート授業により、必要な資料や情報を収集するスキルを習得します。

春学期は、各人が興味をもつ税に関するトピック(たとえば、シェアリングエコノミーへの課税、環境税など)についてプレゼンテーションを行い、全員で議論し、レポートにまとめます。

夏休み中のゼミ合宿(1泊2日)では、秋学期の統一テーマである「グローバルビジネスとローカルビジネスと税」の予習をします。

秋学期は、「グローバルビジネスとローカルビジネスと税」について、各人がトピックを選び、プレゼンテーションを行い、全員で議論し、レポートにまとめます。

【注意事項】

ゼミの内容は、税法の基礎知識を必要としますので、「ビジネスのための税法1」(春学期)および「ビジネスのための税法2」(秋学期)をできるだけ履修してください。

ゼミの運営には全員がかかわるよう、「一人一役」で業務を分担します。

浜口 幸弘 ゼミナール

演習のテーマ

戦略と人工知能 AI

演習の内容

本演習では、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）を十分に学習したうえで、企業の戦略に人工知能を利用する方法について、ユーザの立場から考察してゆきます。この人工知能の演習では、ユーザの立場から人工知能の仕組み理解し、企業のみならずいろいろな分野での人工知能を用いた戦略（娯楽なども含めて）および人工知能の可能性を扱うことにします。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度前半では、経営戦略に関する教科書読み進め、随時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。後半では、AI の仕組みを理解したうえで、認知科学の視点から AI の思考を考察し、また、いろいろな分野への AI の利用を取り上げます。続く4年次では、卒業論文の製作を進めてゆきます。なお授業を補う形で、3月下旬（2年次）と9月下旬（3年次）にゼミ合宿を行う予定です。

本ゼミナールでは、以下の学生を希望します。

1. 卒業論文を書く学生（ただし、4年次での就活時は、就活を優先して可）。
2. ユーザの立場から人工知能を考える場合でも、一部、数学的知識の必要な場合があります。よって、高校文系数学の微分の意味を理解できる学生を希望します（問題は解けなくてもよい。必要事項は詳しく説明。）。

教科書は『経営戦略論入門』（日本経済新聞社）

人工知能本については、その時に選択。

林 祥平 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論, 組織行動論

演習の内容

本ゼミナールでは、組織・集団・人（そしてそのマネジメント）について学びます。組織も集団も人の集まりであるため、突き詰めれば本ゼミの関心は人そのものです。組織における人について心理学的アプローチから学び、深く考える目を養います。例えば、「どうして安い給料でもイキイキ働ける人がいるんだろう」「緊張感があった方が頑張れるのはどうしてだろう」といった身近な疑問に目を向け、自分なりの答えを導き出し、説得力のある説明ができるようになることを目指します。

また、組織行動論はマネジメントの議論と表裏一体です。つまり、組織の中の人について学ぶ中で、「どうしたら従業員の強みを活かせるんだろう」「どうしたら仕事を楽しめるようになるんだろう」という管理の視点も大事にします。

3年次は、テキストの輪読とグループワークに取り組みます。テキストには、組織内の個人心理や集団心理を扱った本を使い、広く基礎知識を身に付けていきます。また各回のテーマに沿ってディスカッションをし、考える癖をつけていきます。グループワークは3-4人で組んでもらい、グループで決めたテーマについて学生が調べ発表し、議論します。4年次には、3年次の経験を活かして、各学生が興味のあるテーマを選び、卒業論文に取り組んでもらいます。

ゼミ合宿、他大学との交流など学生の意見を積極的に取り入れながらゼミ活動を行っていきます。本ゼミが学生にとってより良いコミュニティになるよう、自主的にゼミ作りに加わってくれる学生の参加を期待しています。

森田 正隆 ゼミナール

演習のテーマ

情報技術とマーケティング戦略

演習の内容

本ゼミナールは、「情報技術とマーケティング戦略」の関係について考察し理解を深めていくことによって、これからの情報社会を自分自身で分析して意思決定し、そして創造的に行動していけるだけの知的能力・価値観・行動原理・人間性を養うことを目的としています。

輸送や通信の分野における技術革新は、社会体制はもちろん、生産と消費の両面に対しても創造的破壊をもたらし、次代の扉を聞く強力なパワーを秘めています。コロナ渦を機に、企業はテレワークを、大学はオンライン授業を本格的に導入しました。みなさんも情報技術の活用がいかに社会や生活のあり方を変えるかを身をもって経験されたことでしょう。

そこで、本ゼミナールでは、情報技術とマーケティングの関係について、過去の歴史や理論から学ぶとともに、現在世の中で起こっているさまざまな経済事象や経営問題を取り上げ、それらを理論的かつ経験的に考察し分析するという作業を繰り返しおこなっていきます。また、ケースディスカッション、ロールプレイング、ショートスピーチ、ビジネスプランなどの体験型・参加型の授業を数多くおこないます。そして、並行してグループ研究などの自主活動を課し、年末には研究成果発表会をおこないます。なお、正規の授業時間にさらに1コマ加えて、毎週2コマの連続授業をおこないます。自主的なグループ研究活動も含めてゼミのために割いていただく時間がかかり多くなります。それらのことを納得できる方のみご応募ください。

最近の卒業論文テーマをいくつか下記に紹介いたします。

- コレクションして満足してしまう時と消費にまで至る時の違いは何か：欲求や動機の違いに基づく漫画の消費行動に関する研究
- SNS のプロフィール画像が本人を特定できるものとそうでないものに分かれるのはなぜか：自己開示と自己呈示を促進するメカニズム
- 無料で読めるネット漫画の有料版が売れるのはなぜか：応援したいという気持ちが喚起する購買行動
- 似たような内容でも表現を変えるだけでリツイートは増やせる：Twitter におけるシンプルで淡々とした表現と情報拡散との関係
- なぜ YouTube の CM は不快に感じることが多いのか：能動的なメディア接触態度に合致した広告表現のあり方

発 行 日：2021年7月15日
2021年9月15日更新
2021年10月1日更新
編集責任者：佐々木 百合
編 集：明治学院大学 経済学部
〒108-8636